

Daily comment

ドル/円、久々の買い材料揃い踏みで反発

昨日のドル/円は、東京午後中盤から強まったドル売りとクロス円主導の円買い戻して、一時 103.77 円まで急落したが、Major Fibonacci point の 103.69 円処 (= 38.2% of 95.77 108.59) の手前で下げ止まり、このあと V 字反騰で 105.20 円まで上昇している。

この日は、米銀ウェルズ・ファゴの決算が減益ながら予想を上回り、増配方針を示したことから米金融セクターへの懸念を幾分後退させたほか、米証券取引委員会が緊急措置として導入したファニーメイとフレディマックを含む 19 の金融機関の株式を対象とする空売り規制が、金融株主導の買い戻して米主要 3 株価指数が揃って大幅高となっている。

さらに、6 月の米鉱工業生産が予想を上回ったことや、原油先物の大幅安、バーナンキ FRB 議長が「ドル買い介入は一定の状況下で正当化される」と述べたこと、6 月の FOMC 議事録で次の政策変更が利上げであるとの意見が存在したことなどが、ドル買い戻しを促す格好となった。

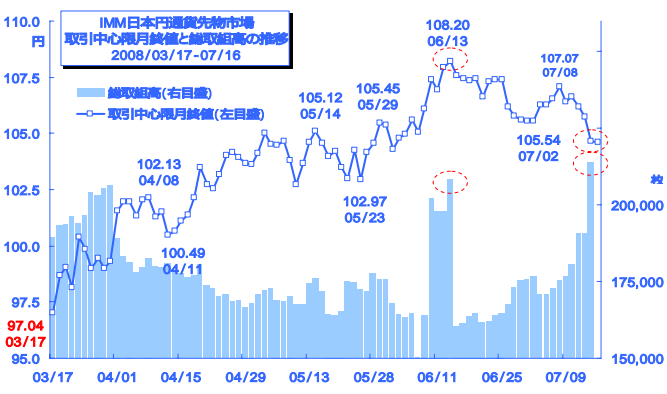
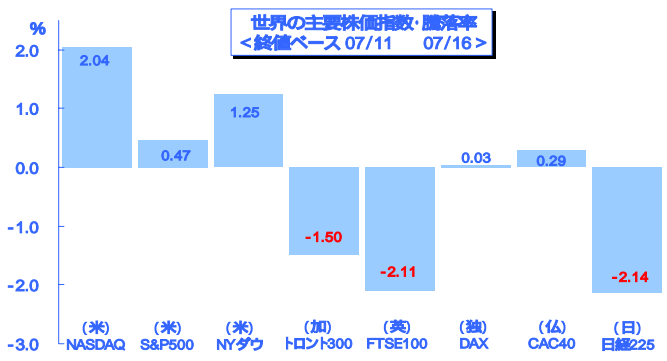
昨日の東京市場では円独歩高のリスクを指摘する著名ストラテジストのコメントや、複数の為替アナリスト等による 1 ドル=100 円割れの円高観測が出回っていただけに、円ロングに傾斜し過ぎたポジションの一部が巻き戻されたとみることができよう。

インターバンク市場の縮図でもある IMM 日本円通貨先物市場では、円高進展と同時に出来高を伴って取組高が急増しており、積極的に円ロングが構築された可能性を示している。(この見方が正しいかどうかは今週末の CFTC 建玉報告で判明する)

これら円ロングの一部が、久々のドル買い材料の揃い踏みによりアンwindされたとしても不思議ではない

が、昨日のドル/円の戻り上値は 105.20 円と、Minor Fibonacci retrace の 105.29 円処 (= 38.2% of 107.75 103.77) で跳ね返されており、基調が転換したと判断するのは時期尚早といえそうだ。

何しろ、本日 7 月 17 日はドル/円が過去に重要なボトムを示現した「魔の 17 日」というアノマリー(理論などでは説明の出来ない動き)に当たっており、今晚のメリルリンチと JP モルガンチェースの決算発表で金融不安が再燃するリスクは否定できない。逆に、今晚示現するかもしれないドルの安値が当面のボトムとなる可能性も指摘されるが、この場合は安値示現後の戻りがドル急落のトリガーポイントとなった 105.60 円処を NY クローズで上回ることができるかに注目したい。頑強なレジスタンスに転換しているであろう 105.60 円処を上回ることができれば、上昇モメンタム形成へ期待をつなぐことができよう。



価格	総取組高	想定されるポジション動向
円安	増加	円ショートが増加(新規)
円安	減少	円ロングの減少(仕切)
円高	増加	円ロングが増加(新規)
円高	減少	円ショートが減少(仕切)

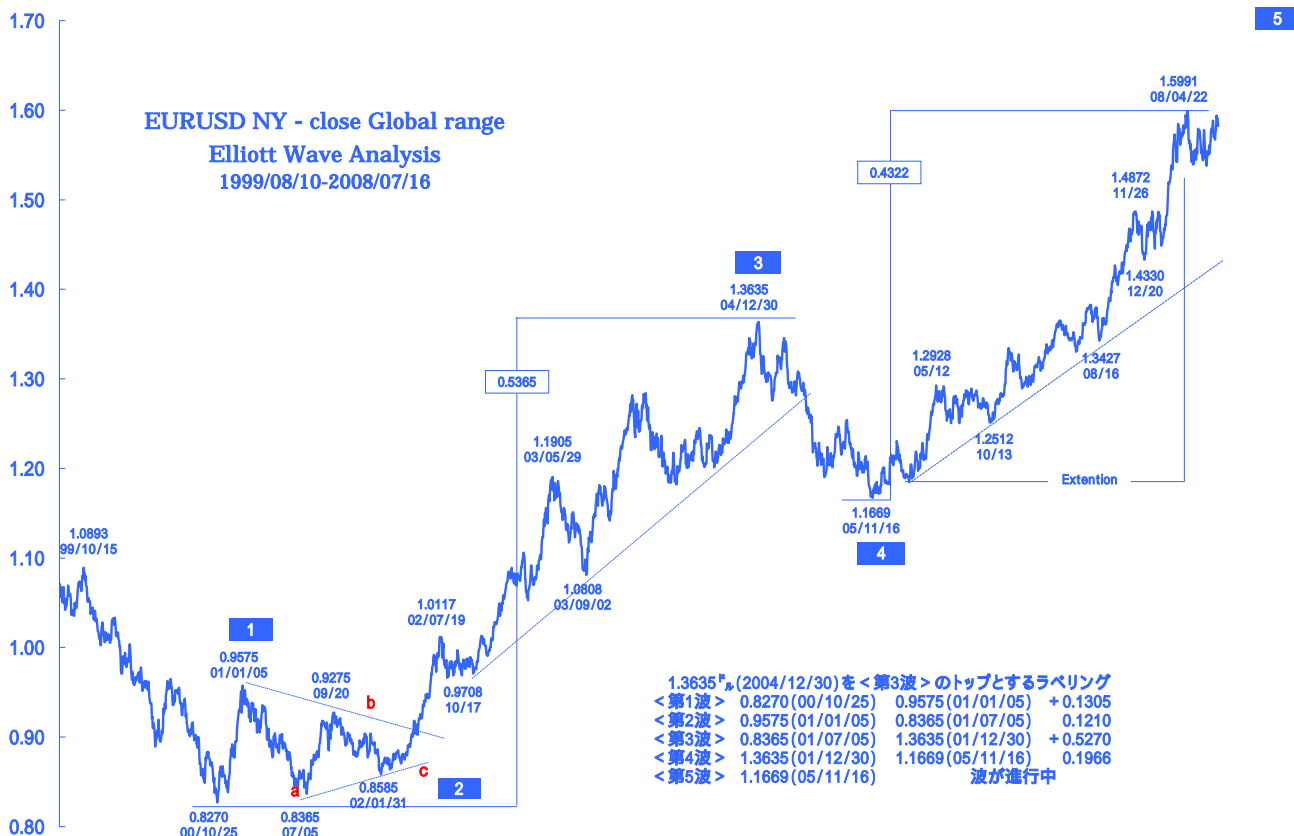
当レポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。記載された意見や予測等は、作成時点における 森 好治郎 個人の見解であり、その正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることもありますのでご留意ください。

Forex Watch Kojiro Mori

一方、ユーロ/ドルは7月15日に発足来高値を更新する1.6040ドルを示現したが、NYクローズベースでは前回高値1.5991ドル(04/22)を上抜けておらず、エリオット波動分析では第5波を構成する調整波が継続しているとみる必要がある。この点は昨夜のセミナーでも述べさせて頂いたが、波の調整が「値幅」「日柄」ともに短すぎるため、1.6040ドル(07/15)の高値はダマシであった可能性が高く、値幅を伴う調整の場合は1.5500ドル割れを試す展開をイメージしておきたい。

ユーロ圏の4-6月期GDPは、0.8%程度のマイナス成長が見込まれている一方、米国は2%後半のプラス成長が見込まれており、金融不安をテーマとする相場一巡後は景況感の米欧逆転や米国の金利正常化を手掛かりとするユーロ安・ドル高が促される可能性も想定されよう。

(7月16日 11:25記)



当レポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。記載された意見や予測等は、作成時点における 森 好治郎 個人の見解であり、その正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることもありますのでご注意ください。